故 大浦茂樹氏

弔　辞

本日茲に先生の御告別式に列して恭しく弔辞を捧げます。

先生は昭和33年6月11日三木市の小学校で多くの初等教育者に対して指導講演中御病気の為御降壇され、急に御病床につかれた由、承りましたが早くも6年有余になります。

その間、御看病の御近親の方々は勿論、時々御病床をお訪ねする本会会員の方々も、先生の御快癒を祈り御再起を期待しておりましたのに、御病重く茲に到りましたこと、実に悲しく衷心哀悼を禁じ得ない次第であります。

私が先生をはじめて存じ上げるに至りましたのは、先生が丁度和歌山師範の付属から転じられ奈良女高師の付属小学校に御在勤の当時、あの第一次欧州戦乱の直後で、我が国を挙げての理科教育振興に打ちこんだ時代でありました。

当時の理学界、理科教育等の月刊雑誌、小学校理科薬品精説という先生の著書を通して、御令名を知ったのであります。

巧妙精緻な写生図、解説は毎号繙く者をして感嘆せしめなくてはおかぬものでありました。

その後、昭和8年5月神戸市立諏訪山小学校長に御栄転後、公私親しく御指導をいただく機会に恵まれたのであります。

神戸市御在勤中は都市学校の特性とも申すべき狭い校地に千数百の児童を収容する立地条件の好ましからぬ学校経営の経済的、合理的活用に努められ、教室や廊下、露台は申すに及ばず陽地も陰地も限なく自然観察、飼育栽培の場に生かされ、先生多年の御研究御経験と、平素のお考えを実際に示され、吾々後進者を啓蒙御鞭撻下さいました。

また、県下理科教育指導上にも大いに御活躍あそばされ、ある時は指導講師に、ある時は視学委員としてお休みの暇もなく奔走遊ばされました。

また、本生物学会との繋がりも、戦前の兵県庫博物学会当時から会友とし、あるいは元老として野外活動に講演会に寸暇を利して御参加下され、胴らんを下げ、ハンマーを持って、少壮、若輩の間に交わり山野を跋渉され、休憩時をおしんで御得意の観察図を描かれ、また、もの優しい御口調で御経験を語られ、身近かに先生の理科教師としてのお姿を拝見しながら私たちの今日が生まれたのであります。

先生の50有余年の教育生活は実に理科教育者の啓蒙と指導に終始されたのであります。

その御功績は実に大きく有形、無形に各所に残され、先生亡き後も後進者の活動に生かされ、ますます吾が国科学教育の振興に貢献することでありましよう。

先生、もう先生のあのお物優しい御動作やお声に接せられませんが、どうぞ後進者の活動をお見守り下され、私達の上に加護を垂れ賜わりますようお願い致します。

倉卒意をつくしませんが、いささか無辞を述べて弔辞といたします。

先生安らかにお眠り下さいませ。

昭和38年1月23日

兵庫県生物学会代表

紅　谷　進　二